

(7) 北 陸



北陸地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は高水準で推移している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回からの主要変更点

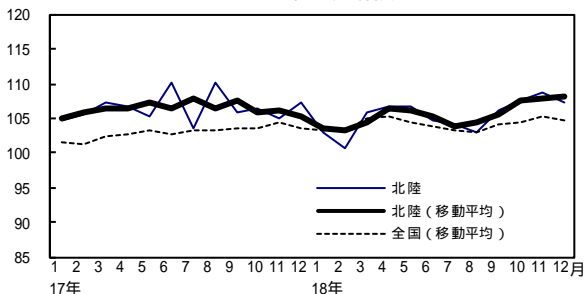
なし

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は高水準で推移している。

10 - 12 月期には、電子部品・デバイスは、スマートフォン向けが増加したことにより、増加した。化学は、医薬品等が減少したことにより、減少した。生産用機械は、半導体製造装置等が増加したことにより、増加した。金属製品は、減少した。繊維は、減少した。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

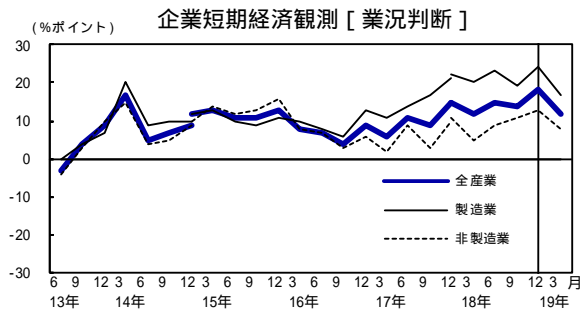
	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	15.3	1.0	17.9	33.1	15.0	3.5
化学	14.0	5.4	9.7	16.7	4.1	5.1
生産用機械	11.8	7.0	5.6	14.5	20.9	2.4
金属製品	8.1	2.3	0.7	2.7	0.2	4.4
繊維	6.9	1.4	2.9	0.7	5.2	6.5
鉱工業	100.0	1.6	3.4	1.4	1.2	1.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10 - 12 月期、12月は速報値。

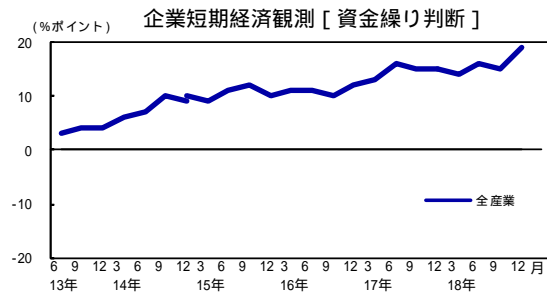
(7) 北陸

(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

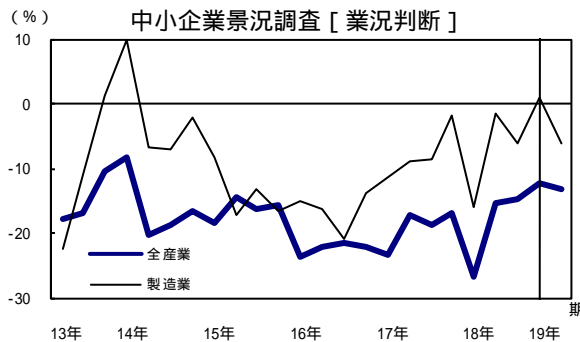
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。2019年3月は予測。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

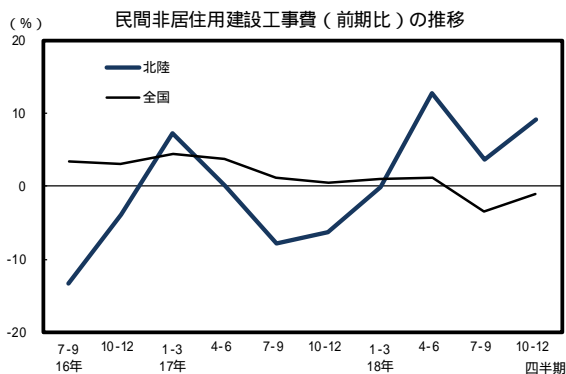


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。2019年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「1月は前年のような大雪もなく、小売店を始め飲食店や宿泊施設からは、休祭日を中心に売上は好調であるとの報告を受けている。また、冬場の観光客の落ち込みも少ない。経営者等との面談を通じた肌感覚でも、足元の市内の景気は好調を維持している(金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



(備考) 1. 季節調整値。
2. 2018年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]
(前年度比、%)

	2017年度実績	2018年度見通
全産業	18.1	10.3 (1.6)
製造業	28.8	8.6 (0.1)
非製造業	4.7	12.9 (4.2)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

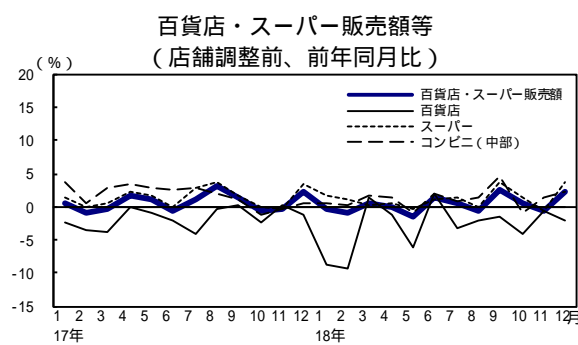
10月は前月比0.1%減、11月は同1.9%増、12月は同0.9%増となった。

百貨店・スーパー販売額

10月は、飲食料品が好調に推移し、スーパーの新規開店効果もあって、前年を上回った。11月は、飲食料品は堅調に推移しているものの、気温の影響などから衣料品を中心に振るわず、前年を下回った。12月は、気温の影響もあって衣料品などは振るわなかったものの、スーパーの飲食料品などに動きがみられ、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「前年1月は大雪によるまとめ買いの特需があった。今年は野菜の相場安があったものの全体の販売量に差はなく変わらない (スーパー)」などの回答がみられた。



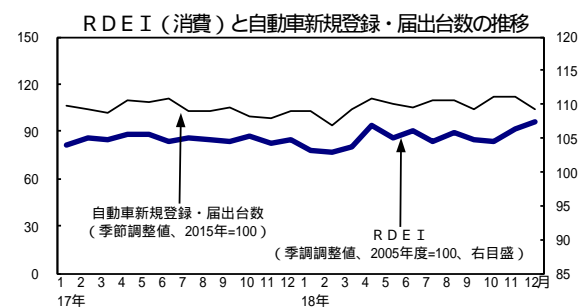
	2018年10-12月	2018年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	1.1	0.1	1.9	0.9
百貨店・スーパー(*2)	0.8	0.4	0.6	2.3
百貨店(*2)	2.1	4.0	0.6	2.0
スーパー(*2)	1.6	1.5	0.6	3.6
コンビニ(*2)	0.8	1.0	1.3	2.3
乗用車(*3)	10.0	15.0	14.1	0.0
(季節調整値)(*3)	1.0	6.6	0.3	7.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

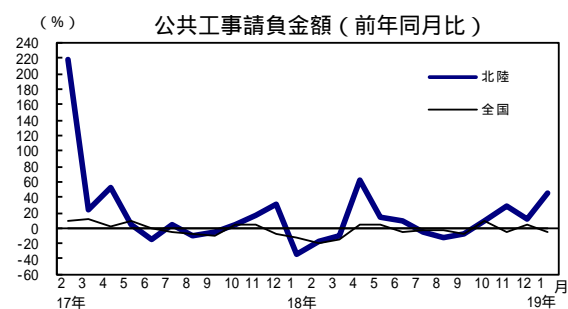
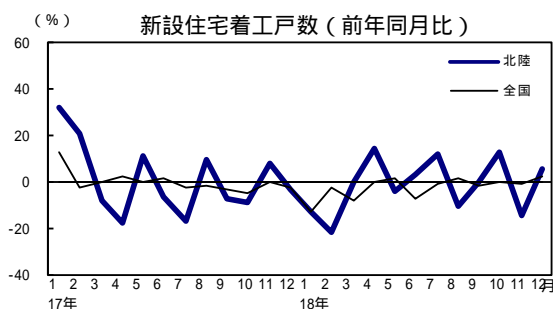
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は前年に比べておおむね横ばいとなっている。

持家が前年を上回ったものの、貸家、分譲が下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は2018年度累計で見ると前年度を上回っている。



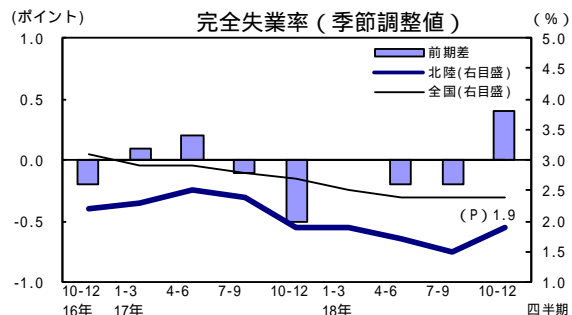
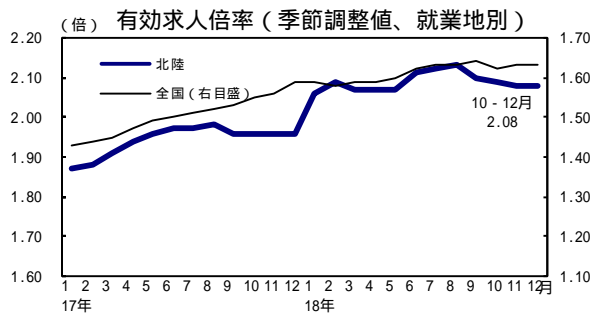
(7) 北陸

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。
2. 10 - 12 月期の値は暫定値。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[雇用関連(現状)]

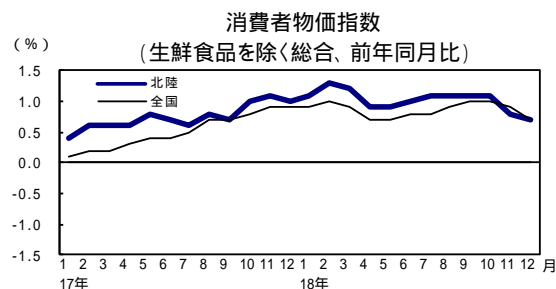
「フルタイム希望の求職者は少なく、以前と変わらない状況である(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	2018年 (件、億円、%)				2019年1月
	1 - 3月	4 - 6月	7 - 9月	10 - 12月	
倒産件数	47	39	57	47	19
(前年比)	13.0	9.3	29.5	6.8	11.8
負債総額	47	39	49	55	18
(前年比)	66.5	0.3	25.0	19.6	234.7



(備考) 北陸は内閣府にて算出。

景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

